

親子・いけばな体験「お正月花飾り」を作ろう

作成者：いけばなIBQ

- 対象者・人数：幼児～小学生高学年 親子20組
- 所要時間：1回90分
- 指導者・アシスタント人数：いけばな講師5名（連絡担当者1名）
- 対象場所：学校・学童教室

子ども達に、季節や行事の花飾りの風習を伝えていきたいと思い「お正月花飾り（松のいけばな）」を指導する若い華道家のボランティアを募り、親子いけばなを実施した。親子でいけばなに参加してもらい、植物を身近に感じ、家に飾る楽しさを知って欲しいとの思いで行った。仙台での開催のため、地元の花卸業者である株式会社とうほくフラワーサポートをはじめ地元の市場等を通じて花材・資材を調達した。



■ 資材

- ・ハサミ
- ・剣山（7cmくらいの物、無ければ小さい物でも可）
- ・水盤（プラスチックのお菓子の皿など水漏れしない物）
※100円ショップ等で安価に購入ができる。
- ・新聞紙（テーブルに敷くものと、持ち帰りに包むもの）
- ・正月お飾り（100円ショップ等を利用するとよい）



■ 花材

- ・若松（松） 3本（細く小さい枝が切りやすい）
- ・スプレーカーネーション 2本（黄色など明るい色）
- ・ナンテン（南天） 1本

〈その他に使用出来る花材〉

- ・しの竹
- ・銀ぬり柳
- ・センリョウ（千両）
- ・ハボタン（葉牡丹）
- ・梅の小枝
- ・キク
- ・スプレーギク 等



【指導内容と目的】

- ・親子でいけばなを体験することで、花・草木に関心・愛情を持ってもらう。
- ・親子で一緒に制作することにより、共通の話題や趣味として楽しんでもらう。
- ・いけばなを楽しむことで身近に感じ、日常生活に花を取り入れるきっかけをつくってもらう。
- ・生花に触れることで、花や植物の色や形に対しても興味・関心を持ってもらう。
- ・いけばな作品を、部屋のどこに飾るか、誰に見せるか、を考えることにより「もてなし」の文化に関心を持ってもらう。
- ・1回のお稽古の基本である「準備・実践・片付け」を学び、使用した場所をきれいにし、道具などを元に戻す習慣を身につける。
- ・お正月及び五節句*と花についての関係を知る。

〈五節句とは（伝統的な年中行事を行う季節の節目となる日）〉

- ・人日（じんじつ）の節句 1月7日 七草の節句
- ・上巳（じょうし／じょうみ）の節句 3月3日 桃の節句
- ・端午（たんご）の節句 5月5日 菖蒲の節句
- ・七夕（しちせき／たなばた）の節句 7月7日
- ・重陽（ちょうよう）の節句 9月9日 菊の節句

【対象者への配慮】

- ・テーブルの配置は、間隔を空け、児童の通行スペースを確保する。
- ・ハサミは、先の丸い物を使用するのが望ましい。
- ・枝物は、ハサミで切りやすい花材を選ぶ。
- ・作品の作り方等の説明やデモンストレーションのスピードは、低年齢の児童に合わせる。
参加者の作成の進捗が違う時には、講師が様子を見ながら遅れている児童に付き指導する。
- ・児童5～7人に1人講師が付き指導することが望ましい。
- ・水場に近い教室が望ましい。
- ・児童館で行う場合は、参加者が集中できるように参加しない児童などの出入りに注意する。

1. 事前の準備

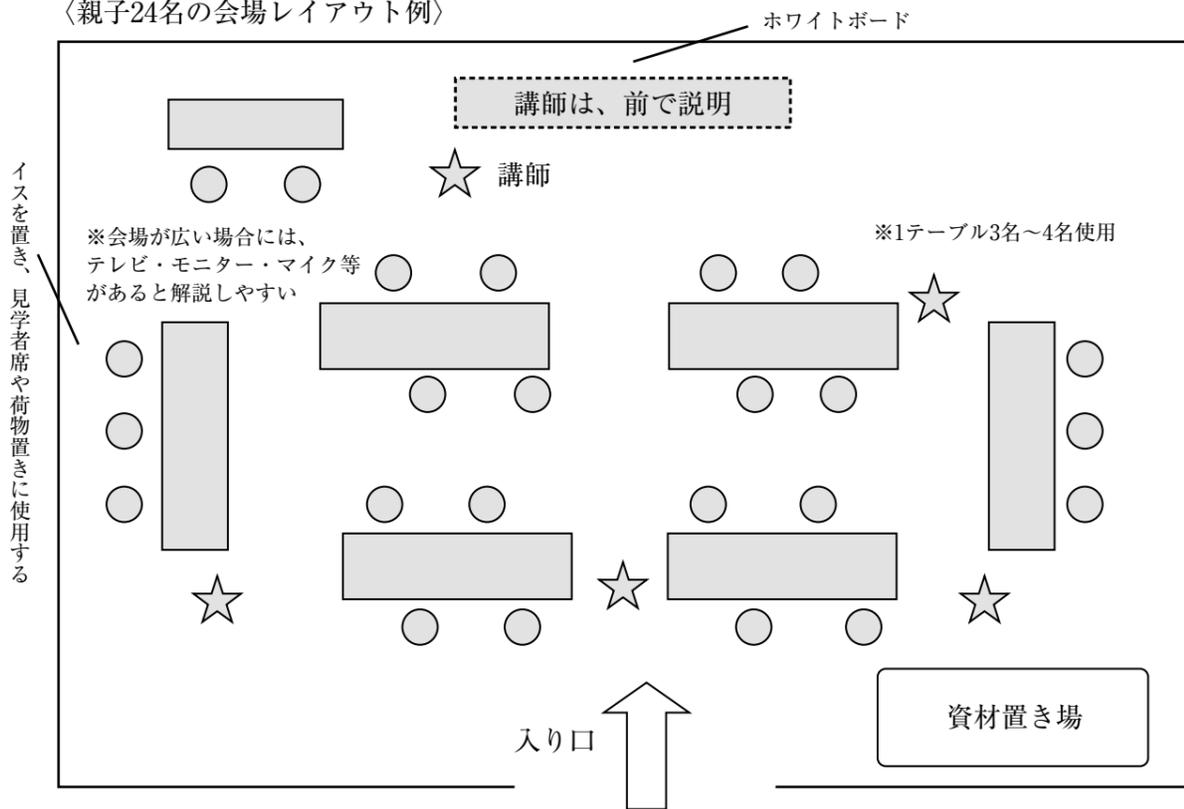
■主催者との確認事項

- ・使用教室と時間の確認
- ・参加者と講師数
- ・花材費
- ・持参品、貸し出し品など

■当日の準備

- ・開始1時間ほど前に、講師・アシスタント集合
資材搬入後にミーティングを行い手順等の最終確認を行う。
- ・テーブル、イスなど参加者の人数に合わせて配置する。

〈親子24名の会場レイアウト例〉



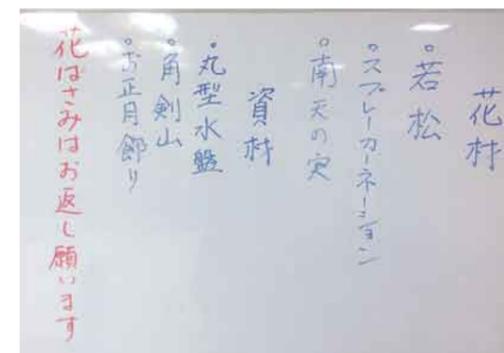
- ・講師やアシスタントが、各テーブルをまわりやすいように通路を確保する。
- ・イベント等でワークショップを開催する場合は、参加者が初対面の場合が多いので和やかな雰囲気を作る工夫として、グループ形式にすると参加者同士が対面して会話がしやすくなる。
- ・空いた席やイス・テーブルなどを使い、家族などの見学者や参加者用の荷物置き場を作るとよい。

■資材の配布・セッティング

下準備が終わったら各テーブルに資材を用意する。テーブルが汚れないように、一人1枚古新聞を敷き、いけばなの資材や花材を一人分ごとに並べる。



※小学校低学年が参加の場合は、ハサミなどは使用する直前にアシスタントが配布をして、使用後に回収すると怪我の危険が少ない。



ホワイトボードや黒板があれば、花材や資材を書いて説明してもよい。

2. 当日の流れ

- ・時間 (所要時間) 10:00~11:30
※終了の10分前には、全作業を終了してテーブル周りを片付ける。

■具体的な手順

- ①講師・アシスタント挨拶・自己紹介
 - ・講師が行っている日頃の活動や花育活動についても紹介するとよい。
 - ・花や植物のマメ知識などを織りまぜると植物に対する関心が深まる。
- ②お正月の花飾りについて説明
〈解説例〉



- お正月は、気持ちも新たに1年のスタートです。縁起がよいとされる松や、竹、梅、南天、菊などを生けてお客様をお迎えしましょう。
- ・松 常に緑を保ち続ける樹木であることから、長寿や生命力の象徴とされる。
 - ・竹 すくすくと威勢良くまっすぐに伸びることから成長や出世を象徴するといわれる。
 - ・梅 寒い冬に、桜など他の花に先駆けて咲くことから忍耐強さを表す。
 - ・南天 「難を転ずる」といわれ、難を転じて福を招くとして縁起の良い木として知られている
 - ・菊 薬効があるとされ、邪気をはらう縁起物として知られている。

若松は、本来切りたての竹を器にして、新年初めての水でいけます。
 新しい年（若い年）に若松、若水とそろい縁起が良いとされています。
 金色銀色の水引を松の根元に飾ります。

③器と剣山の説明

花材やハサミ、剣山などは、先生から指示があるまでさわらないように説明する。

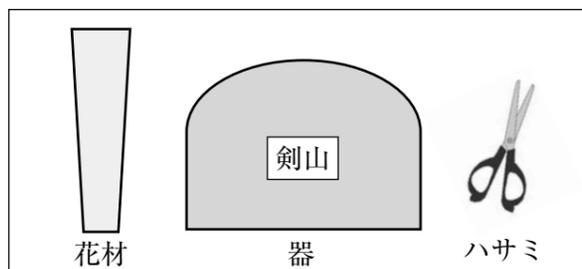
〈解説例〉

器と剣山などの道具は、皆さんがいけばなをするときの大事な仲間です。道（みち）を具（とも）にする大切なものとして大切に扱いましょう。

剣山の先には針がたくさん付いているので、指を刺さないように注意して、器の中央に据えましょう。



自分の正面に器と剣山を置き、
 右利きなら、右側にハサミ、左側に花材
 左利きなら、左側にハサミ、右側に花材を置く。



※右利きの場合の道具や花材の置き方

剣山を器に入れたら、先生に水を入れてもらう。

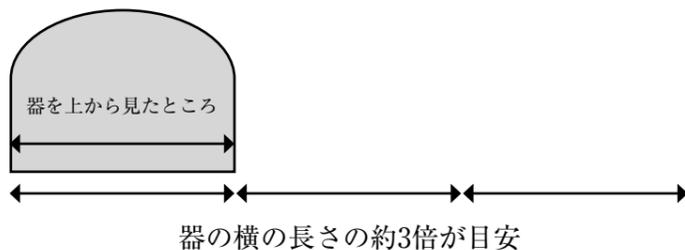


④花の生け方

ア. 3本の松の枝の中で一番太くて良い枝を見つける。

イ. 1本目の松の枝の挿し方

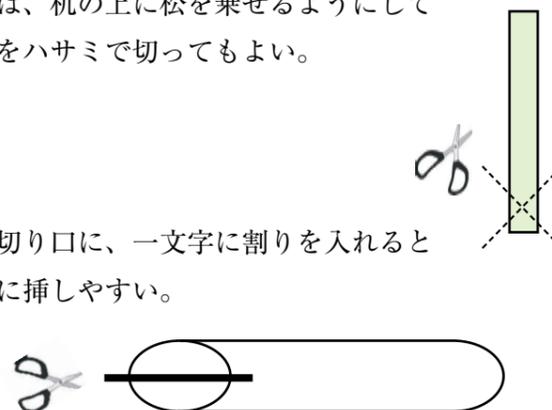
挿す枝の長さを決めます。器の横の長さの約3倍の長さに切る。



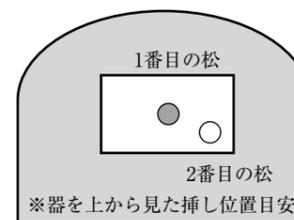
ウ. ハサミの刃の奥の方で斜めに切り、剣山に対して器の真ん中にまっすぐ挿す。

・児童は、机の上に松を乗せるようにして枝先をハサミで切ってもよい。

・茎の切り口に、一文字に割りを入れると剣山に挿しやすい。



エ. 次に良い松の枝を選び一番始めに選んだ枝の半分の長さに切り斜め手前に挿す。

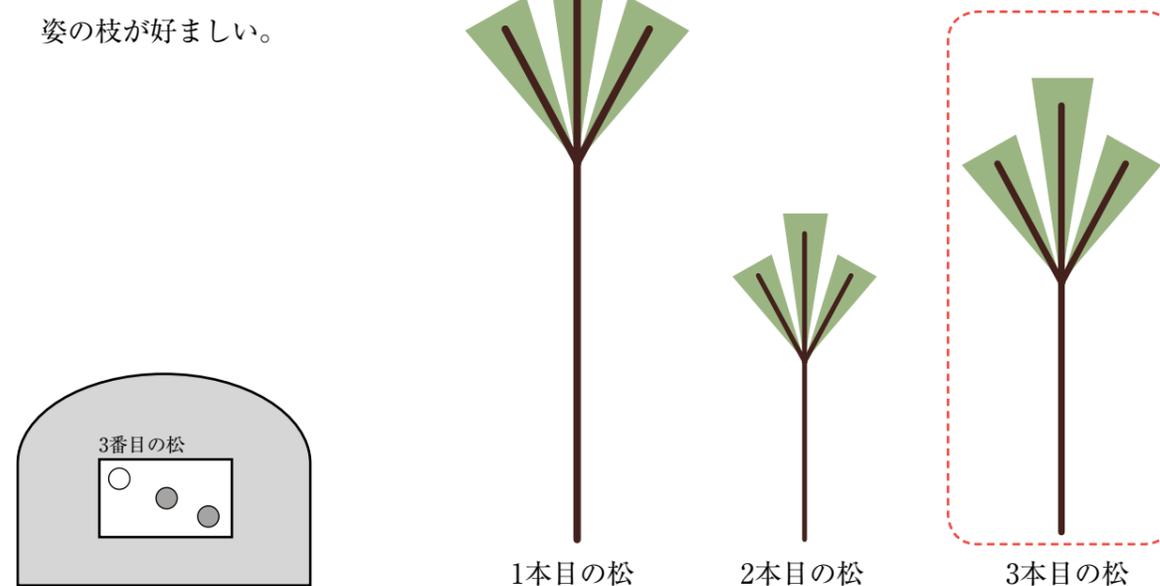


まっすぐに挿した後、手前に傾けると枝がしっかり剣山にささり、斜めにしても枝が倒れない。



オ. 3番目の松は、1本目と2本目の間の長さに切り1番目の松の後ろに挿して少し斜め奥に倒す。

3番目の枝は、1番目の枝よりも細めの枝にします。控えめな姿の枝が好ましい。





カ. 松の骨組みを挿し終えたら、カーネーションを松の間に挿していく。

- ・カーネーションは、松の枝の内側に挿していく。
「カーネーションは、お姫様、松は姫を守る騎士です」と伝えるとわかりやすい。長さは1番目の松の半分ぐらいにします。
- ・カーネーションは、茎がやわらかいので、真横に切るだけで剣山に挿すことができます。



キ. ナンテンを入れていく。枝が細いので刺さらないときには何本か束ね松の切り枝と一緒にワイヤーで留めて補強すると挿しやすくなる。



⑤お飾りを付ける

- ・お飾りは、児童が楽しんで付けることが大切。自由に好きな場所に付ける。
- ・いけばなは、花材が奇数になるようにいける。花材が4種類ならお飾りを数えて5種類とする。



⑥手直し・講師やアシスタントに確認してもらう。

- ・花材の挿し位置などを確認する。
- ・飾りの位置やワイヤーがしっかりと留まっているかなどを確認する。



⑦出来上がった作品の写真撮影・感想を書く。

- ・作った児童と作品と一緒に写真を撮ると記念になる。親子で撮影しても良い。
- ・感想記入用に、はがき大の紙を用意しておく。感想は、とりまとめて次回の参考にする。



⑧あと片付け

作品が出来上がったら、テーブルの周りのゴミやテーブルの下のゴミをまとめて道具を片付ける。

- ・花材の持ち帰り方



花材を器から抜き取り、まとめて新聞紙に斜めに乗せる。花材を整えたら、茎の方から新聞紙でくるんでいく。

器に残った水を入れるバケツなども用意しておくが良い。

- ・いけた花材と使わなかった花材は、分けて新聞紙に巻くといけ直すときに便利。

(最後に、ご挨拶をして稽古を終了する。)



⑨作品の管理

- ・花を、持ち帰り家でもう一度いけるように指導し、家の中に飾る。
- ・水は、たっぷりを入れる。
(お稽古では、剣山の針の高さまで入れるが、家では器にたっぷりを入れる)

⑩感想の発表・終わりの挨拶

- ・作った作品は、みんなで鑑賞し、友達が工夫した点やアイデアを発表する。
- ・時間があれば子供、保護者それぞれの感想を発表してもらおう。
- ・担当の先生からも感想をいただく。



●指導ポイント

- ・太い枝は、講師が予め切っておき、児童が切りやすい太さの枝を用意しておく。
児童がハサミで枝を切りにくい場合は、講師が手伝って切る。
- ・季節によって咲く花や使う花が違うことを伝える。
- ・台ふきやぞうきんを用意して、水がこぼれたらすぐに拭けるようにする。
- ・楽しむことができるように指導を心がける。

■ 所要時間や配分

開始60分前

Time 所要時間

0分 (10分)

10分 (15分)

25分 (10分)

35分 (20分)

55分 (10分)

65分 (10分)

75分 (10分)

85分 (5分)

90分

集合・学校や主催者への挨拶・打合せ
スタッフミーティング・使用する資材や花材の確認

①参加者着席を確認して、講師挨拶（講師・アシスタント自己紹介）
作業についての諸注意

②お正月飾りについての説明

③器と剣山の説明

④花の生け方

⑤お飾りを付ける

⑥手直し、講師・アシスタントは、一人ずつ確認

⑦出来上がったら写真撮りや感想を書く

⑧片付け

⑨今後の管理について、説明する。

⑩終わりの挨拶

終了

30分 (30分)

⑪最終的な片付け、講師・主催者等終了ミーティング